

010601パルプ・紙製造業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
2022	4	0 ～ 2	三交代制で設備の保守点検のため巡視等の業務に従事していた被災者が、ホイールローダーの作業エリアを通行していたところ、木材チップをホッパーに投入するため後進してきたホイールローダーに轢かれたもの。被災者は頭部等を轢かれておりその場で死亡が確認された。	141	7	100 ～ 299
2022	7	10 ～ 12	パルパーに投入する原料パルプの番線等を取除く作業を同僚と2名で行っていた被災者が、原料パルプを反転させる反転機（原料下部の番線、包装紙除去のため反転させる装置）のセンサー不具合発生のため反転機の調整作業を柵内に入り込み行っていた際、閉まってきたクランプ（反転のため原料固定用）と反転機のフレームに首を挟まれた。元方事業場社員がクランプを開き被災者を救出し、救急搬送されたが、約6日後に死亡した。	169	7	10～ 29
2022	9	2 ～ 4	工場倉庫内で、天井クレーンを操作してロール状の板紙を積み上げる作業を行っていたところ、直近に積み上げた板紙が崩壊して荷役していた板紙を押し込み、当該押し込まれた板紙と背後の鉄製安全柵との間に身体が挟まれたもの。その後、荷役していた板紙を巻上げたことで、当該板紙の重量が被災者の身体にかかり、今度は胸部を強く打ったもの。	611	7	100 ～ 299
2021	6	16 ～ 18	紙切れが発生し、ライン停止されたが、紙ロールが規定搬出メーター近くであったため、被災者は搬出運転ボタンを押した後、キッカーロール真下に位置するボトムナイフに巻付いた紙片を除去するため、キッカーロールの可動範囲にあるプライマシンの間の通路に入り紙片を除去しようとしたところ、キッカーロールが動き始め、キッカーロールと通路の手すりに頭部を挟まれた。	163	7	30～ 49

2021	11	10 ～ 12	再生紙の原料をホッパーに投入するための傾斜ベルトコンベア（幅150cm）のベルトが非駆動側に偏ったため、被災者自身がベルトコンベアの運転スイッチを入れて稼働させ1人でベルトコンベアの真下にある囲いの中に入り点検していたところ、ローラーに頭部を挟まれ死亡したものの。	224	7	50～ 99
2020	7	14 ～ 16	工場内木釜（きがま）室にあるエレベータコンベアにてチップが詰まって機械に不具合が生じたため、被災者は、コンベア内でチップを取り除く作業をしていた。被災者は機械を停止して作業を行っていたが、突然コンベアが動き出し、被災者がコンベアとプーリーの間に挟まれた。	224	7	30～ 49
2020	8	16 ～ 18	調液タンクの配管の詰まり解消作業を行っていた被災者が、タンク上部の開口部に体が挟まった状態で発見されたもの。タンクの開口部は長辺44cm、短辺35cmの扇形で、タンクの直径は90cm。歩廊面からの高さは95cmである。発見時、被災者は上半身がタンク内部、下半身がタンク外側、足は歩廊面から浮いた状態で、ボルトで固定されたタンクの蓋をずらし、被災者を救出したが、腹部圧迫による循環不全で死亡したものの。	418	7	100 ～ 299
2020	12	6 ～ 8	被災者は技能講習を受講するため、会社の寮から会場へ自転車で移動していた途中、横断歩道を渡っていたところ、乗用車にはねられ、死亡したものの。	231	17	1000 ～ 9999
2020	12	18 ～ 20	損紙仕込作業に従事していた被災者が、損紙巻取間の床で意識なしの状態で倒れているのが発見され、当日の夜に死亡確認（死因：脳挫傷）されたもの	163	7	50～ 99
2019	10	16 ～ 18	被災者はパルパータンクの側面に立ち、ワゴンをリフトで傾けてタンク天板開口部から半端紙を投入する装置の操作及び開口部から攪拌状態を確認する作業を一人で行っていた。被災者の同僚が被災者作業場所付近を歩行中、被災者の悲鳴が聞こえ、駆け付けたところ被災者の姿はなく靴がタンク内に浮いている状態であった。その後、被災者はレスキュー隊にてタンク内から救出されたものの意識はなく病院へ搬送されたが同日に死亡し	391	10	100 ～ 299

			た。			
2018	4	14 ～ 15	古紙の保管場所において、巡視中の代表者が、2列4段の高さ（床面から約3.6m）に積み上げられた8個の古紙の塊について、列間に隙間を認め、倒壊の危険を感じ、塊を掴むアタッチメントを装備したフォークリフトを運転し、地上から2段目以上の合計6個の塊を列の隙間がなくなるように整えた。代表者がフォークリフトから降りた直後、西側1列の上部3個の塊が崩れ落ち、付近で清掃作業中の被災者に激突した。	611	5	10～ 29
2018	6	2 ～ 3	製紙工場において、原料の調整作業を行っていたところ、原料を調整する深さ約4.6mのピット（マシンチェスト）に異物が混入していた。異物除去の作業にとりかかり、ピットに入ったAが梯子の途中で転落した。Aの救助に向かったBも梯子の途中で転落し、次に救助に向かったCも転落した。消防隊員がピットより救出したが、3名とも死亡が確認された。	514	12	50～ 99
2018	6	2 ～ 3	製紙工場において、原料の調整作業を行っていたところ、原料を調整する深さ約4.6mのピット（マシンチェスト）に異物が混入していた。異物除去の作業にとりかかり、ピットに入ったAが梯子の途中で転落した。Aの救助に向かったBも梯子の途中で転落し、次に救助に向かったCも転落した。消防隊員がピットより救出したが、3名とも死亡が確認された。	514	12	50～ 99
2018	6	2 ～ 3	製紙工場において、原料の調整作業を行っていたところ、原料を調整する深さ約4.6mのピット（マシンチェスト）に異物が混入していた。異物除去の作業にとりかかり、ピットに入ったAが梯子の途中で転落した。Aの救助に向かったBも梯子の途中で転落し、次に救助に向かったCも転落した。消防隊員がピットより救出したが、3名とも死亡が確認された。	514	12	50～ 99
2018	12	22 ～ 23	紙の製造作業において、不良製品が発生したため、抄紙機（原料から紙を製造する機械）のプレスパート（濡紙をフェルトを用いてプレスで脱水する工程）の地下1階部分を点検していたところ、フェルトを送るローラーと鉄製の吸水棒の間に挟まれたもの。	169	7	100 ～ 299
	8		アンモニア水タンクの液面計管台付き弁の閉止作業を行うため、1名が液面計本体を手で支え、1名がレンチで弁のレバーハンドルを回した直後、			

2017	7	～	弁本体が破断、脱落し、アンモニア水（濃度25%）が噴き出し、2名に	514	12	300
	9		被液、1名は防液堤外に脱出したが、1名は防液堤内で意識を失い倒れ、死亡した。			～
2016	1	～	被災者は、工場の古紙保管ヤード内において、古紙ベール（古紙を圧縮し	611	5	50～
	12		た直方体で塊。番線結束。）258個のはい崩しに従事。古紙2個が			99
			フォークリフトによりはいから抜き取られ、その後に、パレットの片づけ			
			作業で被災者がはいに近づいた時、当該はいの2段目から4段目までの計			
			11個の古紙が崩壊し、被災者がその下敷きになった。			
2016	4	～	製紙工場において、抄造中に断紙し、復旧のため、抄造マシンを停止させ	163	7	100
	9		ずに湿紙を取り除く作業を行っていた被災者が、回転していたロール機			～
			（直径22cm）とロール機（直径1m52cm）の間に挟まれた。			299
2015	6	～	事業場敷地内の水路の周囲の草刈りを被災者が1人で行っていた。被災者	713	10	100
	14		の被っていた麦わら帽子が下流に流れて来たことから、被災者を探したと			～
	15		ころ、下流の水槽内に草刈り機とともに沈んでいる被災者を発見したも			299
			の。被災者が墜落・転落した水路の深さは約3m、水面までの深さは97			
			cm、水流1.3m/sであった。被災者は作業中に水路へと墜落・転落			
			しともものと思われる。			
2015	2	～	被災者は、平成26年6月の異動で課長に昇進し赴任、当初から出火や	921	90	300
	15		タービン損傷等のトラブル対応で所定労働時間を大きく超え、休日出勤も			～
	16		行っていた。同年9月頃から不眠、食欲低下等の症状が現れ、適応障害の			
			診断を受け治療。同年10月から休業し、平成27年1月に職場復帰した			
			が、平成27年2月27日、工場内8号回収ボイラー建屋14階で縊死し			
			ているところを発見された。			
2014	4	～	クランプ式アタッチメントを備えたフォークリフトにて、圧縮された古紙	222	2	30～
	17		を運搬中、フォークリフトが転倒し、被災者が投げ出された。			49
	18					
			被災者はエアホースを用いて、カンバスのドクター（カンバスロールに付			100
		0				

2013	6	1	着した、主に紙粉である異物を掻き取るブレード)の掃除を行っていた。 この作業は数十秒ほどで終了するのもであったが、被災者が戻ってこないため、班長が被災者を探したところ、被災者が通路に倒れていた。	163	7	299
2013	1	11 ~ 12	被災者は、原料置場付近を通行していた際、既に荷卸しされていた原料の古紙ブロックと、その横に荷卸しようとしたベールクランプ付リフトの荷側面と接触し、左側の古紙ブロックとの間に挟まれて死亡した。尚、運搬中の荷で死角となっており、リフト運転者は被災者との接触に気付かなかったため、発見が遅れた。また、古紙ブロックは重量約700kgで、これを4個運搬していた。	222	6	30~ 49
2013	9	11 ~ 12	工場内の電気室で、倒れている被災者が発見された。	352	13	300 ~
2012	12	5 ~ 6	被災者は抄紙機のリールパート部において、製造されたティッシュペーパーを新しいロールに巻き替えるため、ティッシュペーパーの端部をロールに巻き付けようとしたものの失敗して損紙が発生した。その損紙を底状の部品の上で取り除く作業を行っていたところ、誤ってバランスを崩し、脇で回転していたロールに巻き込まれた。	163	7	100 ~ 299
2012	12	15 ~ 16	キャストコート紙の巻取機において、中間位置に停止させていた「エアシリンダ昇降方式のライダーロール」が突然下降し、当該ロールの清掃を行っていた被災者が、当該ロールと巻取用芯管との間に頭部を挟まれ死亡した。	169	7	100 ~ 299
2012	7	13 ~ 14	被災者は結束機で束ねられたパルプ製品(約1t)を結束機の横に仮置きしようと、フォークリフト(2.5t)のクランプではさんだ製品を地上から約2.3mの高さに上げたまま、後方に積まれた別の製品をかわすため、バックしながらS字のように右から左にハンドルを切ったところ、急旋回動作となって車体が転倒し、ヘッドガードと床面の間に腰部をはさまれた。	222	2	10~ 29
			抄紙機で紙切れが発生したため、被災者を含む3名でプレスロールから約			

2012	6	8 ～ 9	100℃に熱せられたドライヤーロールへの紙通し作業を行っていた。この作業中、被災者は、ドライヤーロールとカンバスの間に右足を巻込まれ、そのまま身体全体がドライヤーロールとカンバスの間に約半周巻取られる形で挟まれた。	163	7	50～ 99
2012	7	16 ～ 17	パルパーと呼ばれる古紙再生設備上（高さ：約9m）のコンベアの保全点検作業中、パルパー上の点検口（幅：約1m）からパルパー内に墜落した。なお、通常保全点検では点検口の蓋を開けて作業することはない。	414	1	50～ 99
2012	7	12 ～ 13	被災者は抄造工程のドライヤーパート（乾燥機）入口のカンバス（湿紙を運ぶ布）に付着した紙粉等をホース先端から吹き出すエアにより清掃していた。その際、誤ってカンバスロールとブローボックス（空気を吹き出してカンバスと湿紙を吸付ける装置）の隙間に上半身が巻き込まれ死亡した。なお、カンバスは毎分200mの速度で回転させていた。	163	7	100 ～ 299
2011	4	17 ～ 18	被災者は、重量4.3t、幅1.78m、直径1.9mのロール紙を巻取り機から機械操作で台車の上に設置、垂直に降ろしてから、水平移動させたのち当該ロール紙の品質検査を行う予定であったが、台車リフターが降下した際に当該台車リフターの底部と台車基底部の間に胸を挟まれ、事故発生の2時間後窒息により死亡したもの。	229	7	300 ～
2011	3	15 ～ 16	自動包装機を運転し、板紙を包装するための給紙作業を行っていた被災者が、木製パレットを排出するためのテーブルリフターのテーブル上に上半身を入れていたところ、同テーブルが上昇し、同テーブルとテーブルリフターの鋼製枠との間に挟まれたもの。病院搬送後治療を受けるも、3月8日15時40分死亡が確認された。	229	7	10～ 29
2011	5	22 ～ 23	パルパー担当であった被災者が、災害発生当日行方不明となり、事業場内で捜索されていた。同日他のパルパー担当であった同僚が、被災者が担当していたパルパーの液量が少なくなっていたため、コンベアを動かし、すでにコンベア上に乗ってあった古紙をパルパーの中へ投入した際、人のようなものがパルパーに落ちるのを目撃した。翌日1時頃、レスキューによりパルパーの中にいた被災者を発見、救出と同時に死亡が確認された。	611	5	10～ 29

2010	11	23 ～ 24	被災者は、製品を2段積みにするための搬送用機械の駆動モーターの車軸部分を直すために、1人で搬器の上に入り作業を行っていた。その後、搬器とフレームの間にはさまれた状態で発見されたものである。被災者が、故障箇所を直すために駆動チェーンを切断したことにより、駆動モーターの制動機構により停止していたカウンターウェイトが降下し、搬器が上昇したために挟まれたものとみられる。	229	7	50～ 99
2010	11	0 ～ 1	製紙工場の夜勤（4直3交替勤務）に従事していた被災労働者が、担当していた部署（工場2階、ドライヤ、枠替え担当）からいなくなったので、同僚労働者等が工場内を捜索したところ、約2時間後、1階パルパー（深さ約2mの廃紙溶解用の槽）内にて発見され、死亡が確認された。パルパーのメンテナンス用扉が開いていたことから、ここからパルパー内に転落したとみられる。	391	1	100 ～ 299
2010	9	10 ～ 11	ボイラーの炉内に付着していたダストを除去するため、炉内に入り、ランシング（ランスと呼ばれる2m程度の鉄の棒を用いてダストをつつく）を行ったところ、天井に付着していたダストの塊が落ち、炉内でランシングの作業員に指示を出していた被災労働者に当たり、死亡したもの。また、ランシング作業をしていた2名のうち1名にも落ちてきたダストの塊が落ち、肩を骨折した。	311	4	300 ～ 499
2010	3	15 ～ 16	コンベア下部に溜まった紙を掃除しようと道具を使用し掻き出す作業中、動いていたコンベアに巻き込まれたもの。	224	7	100 ～ 299
2010	1	1 ～ 2	チェスト（古紙原料タンク、約5m×約10m、深さ約4m）の開口部（約1m×約1m）からオーバーフローが発生したため、溢れた原料を当該開口部に入れる作業を行うため、開口部左側に敷いていたコンパネ板（0.3m×1.4m）を外し、中央部に敷いていた杉板（0.24m×2m）を渡っていたところ、転落防止措置がなく転落したとみられる。チェスト内部のスクリーに巻き込まれた状態で発見された。死因は溺死。	391	1	100 ～ 299

2009	10	6 7	梱包されたパルプ原料（70cm×80cm×高さ52cm：約300kg）の番線と外皮を取り外すパルプ離解工程で、下の外皮を取り外す前にパルプ原料を反転させる反転機（上下2本ずつの爪でパルプ原料をはさみ、180度回転することによりパルプ原料の上下を逆にするもの）が回転中に被災者の身体が巻き込まれ、反転機の爪が開く時に下の爪とローラーにはさまれた。	169	7	300 ～ 499
2009	12	7 8	被災当日の朝、被災者は古紙仕込みラインの清掃作業を開始した。10分後、古紙をパルパーに投入するためのベルトコンベヤーが停止していることを不審に思った同僚が、ベルトコンベヤーに巻き込まれ意識不明の被災者を発見、搬送先の病院で同日死亡が確認された。	224	7	30～ 49
2009	11	15 16	被災者は、自転車に乗りボイラ室のボイラーの点検に向かう途中で、パルパー室前の構内道路（幅員9.7m）を走行していたところ、被災者が、最大荷重3.5tフォークリフトで紙製造用パルプ（1.8m×1.5m×1.2m、重量約2.4t）を積載し前進の状態では搬中のフォークリフトに後方から追突され、横転して荷と路面との間にはさまれた状態で引きずられた。	222	6	300 ～ 499
2009	5	15 16	被災者は当該作業員2人とトイレトペーパー入り段ボール箱を中2階に直前まで運搬する作業を行っており、中2階から1階へ固定はしごを利用して降りる際に墜落した。なお、中2階の床面から1階床面までの高さは約3.6m。	413	1	30～ 49
2009	3	13 14	被災者は、同僚がフォークリフトにより運搬した鉄製網籠に入った古紙を別の網籠に移動するため、高さ1.4mの作業構台にて作業中、墜落した。	416	1	30～ 49
2008	2	2 3	ロール紙の包装作業で側面包装機械の円形鋼製盤と架台フレームにはさまれ死亡した。	169	7	300 ～
2008	8	20 21	被災者は一人でフォークリフトを用い、巻き取りロールの損紙を運搬していた。その際抄紙機ラインの側面に設けられた昇降階段と被災者が運転していたフォークリフトにはさまれているところを同僚に発見された。	222	7	50～ 99

2008	1	21 ～ 22	ティッシュを製造するためのワインダー（2本のロールから紙を重ね合わせ巻き取る機械）を1名で操作していた被災者が、稼動中のワインダーに近づいたため、ロールの駆動シャフトの繋ぎ部（歯車）にジャンパーが巻き込まれ死亡した。	163	7	10～ 29
2008	1	19 ～ 20	抄紙機の毛布の目詰まり防止用シャワーのノズルを点検していた被災者が、稼動中（10m/分）のフェルトロールに巻き込まれ、ぐったりしているところを発見された。	163	7	100 ～ 299
2008	12	10 ～ 11	被災者は一人で抄紙機の乾燥ローラー下方にあるガイドローラーの清掃（付着した紙くずの除去）を抄紙機を動かしながら実施していたが、当該ガイドローラー下方の床に倒れているのを発見された。ガイドローラーと紙のおさえをする布（キャンパス）の間に身体ごと巻き込まれた。	163	7	50～ 99
2008	12	16 ～ 17	ダンボール原紙の製造ラインで、ライン機械の清掃のために機械を停止したが、ロールが惰性回転していたため、被災者が搾水工程のプレス（ロール間で紙を加圧し、水分をしぼる機械）の上部に行き、機械内に入った時にロールと布状のベルトの間に巻き込まれた。	163	7	100 ～ 299
2008	2	22 ～ 23	製紙用カレンダーに付属する2基の作業用エレベーターのうち、ローラーをはさんで手前のエレベーターに乗った被災者と奥のエレベーターに乗った同僚がペアで幅6mの紙を巻き付けていく作業中にエレベーターの手すりから身を乗り出して作業中の被災者がエレベーターの手すりとガイドロールにはさまれた。	163	7	300 ～ 499
2007	3	11 ～ 12	被災者が見当たらないことを心配した上司が、ニーディングパルパー（古紙を湯や水酸化ナトリウムで溶解し、繊維状に戻す機械）専用のコンベヤー付近に仰向けに倒れている被災者を、発見した。	224	7	100 ～ 299
2007	7	18 ～ 19	抄紙機において、メンテナンス作業として、シムサイザのペーパーロールの粕取り作業を2名で行っていた。被災者は、ペーパーロールを毎分400mで回転させた状態で、ボトムアプリーケータービーム（塗料を噴出させる機械）の上で帯状のサンドペーパーを使用して作業を行っていたところ、バランスをくずし、被災者の後方でペーパーロールに連動し回転して	169	7	300 ～ 499

			いたロールに巻込まれた。			
2007	8	15 ～ 16	被災者は傾斜コンベヤーのチェーンの取替作業中、コンベヤーの搬送部分に当たるスラットバーと呼ばれる金属板をはずして空間ができたコンベヤー内部に立ち入ったところ、自重で降下して来たスラットバーが背後から激突し、コンベヤーを支えるフレームとの間にはさまれた。	224	6	30～ 49
2006	12	6 ～ 7	故障した屑紙圧縮機（高さ約90cm、長さ約340cm）を修理後、同機を自動運転に切り替え、被災者が一人で同機付近にいたが、その後、同機のピストン部分であるラムの枠（ピストンと連動し可動する内枠）と同機の外枠との間に挟まれた。	169	7	30～ 49
2006	5	9 ～ 10	工場内で雑業務を行っている被災者が、パルパー（裁断した紙の耳等を溶かして原料に戻す装置）の中で、浮いているのが見つかった。	169	10	30～ 49
2005	2	14 ～ 15	製紙用ドライヤーのロールを回転させ、同部分に金たわしを当てて払拭作業を行っていたところ、ローラーとシートとの間に挟まれた。	163	7	30～ 49
2005	6	14 ～ 15	古紙を溶かして再生する装置で、パルプ液を溜めておく槽の清掃作業中、槽上部の開口部から水洗ホースを入れて洗浄していたところ、槽内部に転落した。	514	12	1～9
2005	12	13 ～ 14	工場2階の抄紙機の作業準備中に、1階に墜落した。	414	1	100 ～ 299
2005	1	1 ～ 2	古紙再生ラインにおいて、自動開梱機のベルトコンベヤーに古紙の塊を専用機で載せる作業中、ローラー付近に近づいたところ、上下運動している番線切断部の駆動部が下がり、被災者に激突した。	169	6	50～ 99
2005	10	15 ～ 16	工場構内において、地面に飛散したバラ古紙をフォークリフト及び人力で清掃作業中、バックしたフォークリフトが作業していた被災者に激突した。	222	6	10～ 29

2004	10	16 ~ 17	事業場内の草刈作業において、刈取った草をショベルローダーのバケットに入れるため坂（幅：4m、勾配：6度）にショベルローダーを停車させたところ、ショベルローダーが動き出し、ショベルローダーとともに出入口の坂の法面（のりめん）（勾配：38度）から1.5m下のコンクリート面に転落し、ショベルローダーの下敷きになった。	225	1	~ 299	100
2004	3	22 ~ 23	抄紙機の調整・洗浄作業中にリターンロールに巻き込まれた。	169	7	50~ 99	
2003	11	8 ~ 9	古紙処理設備（パルパー）内で掃除の準備をしていたときに、同僚が非常停止装置が正常に作動しているかを確認するため稼働スイッチを押したため、稼働したパルパーの攪拌（かくはん）用スクリューに巻き込まれた。	169	7	10~ 29	
2003	11	0 ~ 1	製紙工場の釜で原料の種を作るため、釜の投入口に古紙の入ったフレコンバックを投入していたときに、手すりのすき間からフレコンバックとともに釜に転落した。	414	1	30~ 49	
2003	7	13 ~ 14	製紙原料タンクの上縁付近の床（鉄板製）を通行中または作業中に、タンク（深さ約116cm、原料の深さ84cm）の中へ転落し、原料のパルプ等々のどに詰まらせて窒息死した。	417	1	10~ 29	
2003	3	6 ~ 7	抄紙機の紙替作業で、抄紙機のコーティングをする工程のロール機の表面を掃除する作業中に、2つのロールの間に右手から肩、頭部をはさまれた。	163	7	300 ~	
2003	2	4 ~ 5	製紙工場の夜勤中に、出荷ラインのコンベヤにトラブルが発生したので、復旧するためコンベヤ付近で作業を行っていたところ、コンベヤが動き出したためにコンベヤ上のパルプ梱包（質量260kg）が激突し、この荷とライン端の手すりとの間にはさまれた。	224	4	100 ~ 299	
2002	12	2 ~ 3	巻取包装機ラインで作業中に、側面包装機内の円盤と円盤下方の紙置台との間に頭部を挟まれた。	169	7	100 ~ 299	

2002	10	2 ～ 3	製紙会社で、パルパー（間口の直径2m、深さ2.3m）へ原料（損紙等）の投入作業を夜勤で従事していた者の姿が未明から見当たらなくなったので探したところ、パルパーの底部で遺体となって発見された。	162	1	10～ 29
2002	1	16 ～ 17	抄紙機ドライパート（多筒式）部の通紙作業で、22番目のドライロール（全部で約30本ある）の下から上へ通紙しているときに、23番目のドライロール食込み部に上半身を巻込まれた。	163	7	100 ～ 299
2001	11	10 ～ 11	製品の納品立ち会いを行い車で自動車道を走行中、中央分離帯ガードレールに衝突し、その反動でさらに左ガードロープに激突した。	231	17	100 ～ 299
2001	5	23 ～ 24	ショベルローダー(最大荷重2.4t)で古紙をコンベアに投入する作業を行っていてショベルローダーの前輪にひかれた。	225	1	10～ 29
2001	1	16 ～ 17	製紙原料を攪拌するポーター(水槽)のスクリュウを回転させるピット内の補修作業を行い、その状況を確認するためにスクリュウを回転させたときに回転軸に巻き込まれた。	121	7	30～ 49
2000	3	10 ～ 11	パルプを製造する蒸解室棟6階の木材チップを投入する「チップスクリュウコンベア」が停止したため、点検に向かいコンベアの点検蓋を開けたところ臭気ガスが吹き出し、ガスを吸って倒れ、開口部から2階に墜落した。(救助に向った者など3名も倒れた)	514	12	300 ～
2000	11	6 ～ 7	製紙工場内において、20尺パルパーの粕取り作業に従事していたときに、2列4段積に仮置きしてあったダンボール古紙のうち上2段が地上へ落下し、それに激突されるとともに古紙とパルパー壁との間に挟まれた。	611	5	50～ 99
2000	7	9 ～ 10	工場内の故紙はい積み置場で、積み荷の傾きを直しているときに、ばらけた故紙を集積するための清掃を行っていた者を3段目のはい積み(約480キロ)が崩れ落ち直撃した。	611	5	10～ 29
2000	3	9 ～	古紙回収工場の解体作業で、ガスバーナーで鉄骨モルタルの壁(高さ約3m、長さ約6m、厚さ約10cm)を切断中に、倒そうとした壁が反対側に倒	418	5	100 ～

		10	れてきたため、倒れた壁に押し倒された間柱に激突された。			299
2000	11	5 ～ 6	抄紙機の巻き取りが不調となって横ずれが生じたため、ロールのシャフトに専用フックをかけるスペースが無くなり吊り上げて移動することが出来なくなったので、フックの代わりに玉掛用ワイヤーをシャフトに掛けようとしたときに回転しているシャフト先端部に作業服が巻き込まれた。	163	7	30～ 49
2000	6	22 ～ 23	サイロから連続運転の釜へチップを搬送するベルトコンベア(なお、当該コンベアは特殊ゴム製で、変形機を通過するまではU字状であり、通過後は円筒状になる。)の巡回点検中に異常音が発生していたので防護柵をはずして点検していたときに、ベルトと支持ローラーとの間に両手を巻き込まれた。	224	7	300 ～ 499
2000	9	15 ～ 16	天井走行クレーンの定期自主検査を実施中、配電盤の中の配線(パイロットランプ用、200ボルト)の端部がこめかみ付近に接触して感電した。	211	13	300 ～ 499
1999	8	1 ～ 2	抄紙工程で製造したジャンボロールを巻き取り直して一定寸法に切断する工程のワインダーの運転業務に従事していて、ニップガード(ワインダーの回転中のロール・ドラムへの接触防止装置)に挟まれた。	391	7	1000 ～ 9999
1999	2	18 ～ 19	ベルトコンベアの下に立ち入って床面の掃除を行っていたときに、両腕をコンベアベルトとガイドローラーとの間に巻き込まれた。	224	7	50～ 99
1999	6	14 ～ 15	ペットボトルの成形前製品の注ぎ口部分を結晶化(透明であるものを白くする)処理し、箱に詰めるオートメーション化された一連の作業で、箱詰作業中に稼働部分に頭部をはさまれた。	169	7	50～ 99
1999	3	14 ～ 15	直径3.6m、深さ3.2mのタンク状の古紙離解機に投入した古紙角荷の荷締め番線を切り忘れたため、梯子で中に入り番線を切断して引き抜こうとしたときに、70℃、4.9立方メートル、か性ソーダ濃度0.1%離解機中に転落し熱傷した。	715	11	30～ 49
		10	石綿ボードの取付工事の完成具合を検査中、石綿ボードの上部に敷いて			300

1999	1	～	あった鉄板が取り外されていたため、石綿ボードを踏み抜き約6メートル	414	1	～
		11	下の地面に墜落した。			499

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。